

はこぎき

箱崎環境対策協議会

第20号

中央区日本橋
箱崎町34の8

☎3667-5667

明けまして

おめでとう

ございます



皆様には、おそろいで輝かしい新春をお迎
えのことと、心からお喜び申し上げます。昨
年は皆様方に温かいご支援、ご協力をいた
だき、厚く御礼申し上げます。

また、このたびは箱崎環境対策協議会機
誌「はこぎき」が、昭和六十三年一月の創刊
以来第二十号を迎えられ、誠にめでとうご
ざいます。これから多くの方々に愛される
地域情報誌としてますます充実、発展され
ますことを祈り申し上げます。

約千八百人の方々が暮らす下町情緒豊かな
日本橋箱崎町は、今日では首都東京の、そし
て日本の“空の玄関”東京シテイ・エア・
ターミナルを擁する名実ともに世界に開かれ
たまち「ハコザキ」に発展いたしました。特
に近年は、地下鉄の開通をはじめ再開発事業
や街路、公園などの整備が進み、すっかり本
区の誇れる近代的なまちとなりました。

このような箱崎町が年々発展をとげて来
れましたのも、協議会の皆様を中心に地域を
愛する多くの方々のご尽力のたまものと存じ
ております。

本区は地域の特性を生かしたきめ細かな
ちづくりを推進しておりますが、そのために
は地元の皆様のご意見、ご要望を十分にお伺
いするとともに、何より地域の皆様と一体と
なつての取り組みが必要となります。

協議会の皆様は、この機誌「はこぎき」
を通して地域が抱える多くの課題を提供する
と同時に、地域コミュニティを豊かにし、さ
まざまな意見を集約して来られました。いわ
ば「はこぎき」は、本区政と地域とのパイプ
役として大きな役割を果たしていただいてお
り、皆様のご努力に深甚なる敬意を表します
とともに心から感謝、御礼申し上げます。

間もなく夢あふれる二十一世紀を迎えます
本区といたしましては、地域の皆様としまっ
かり手を結び、「ハコザキ」にふさわしいま
ちづくりを着実に推進してまいりますので、ど
うか皆様の一層のご支援、ご協力をお願い申
し上げます。

箱崎環境対策協議会のさらなるご発展と、
川田利雄会長さんをはじめ会員の皆様のご健
勝、ご多幸を心からお祈りいたしましてご挨拶
とさせていただきます。

中央区長 三田美英

『はこぎき』発刊十周年・二十号を記念する

このたび、当箱崎環境対策協議会の機誌
『はこぎき』は、記念すべき第二十号の発刊
となりました。

昭和六十三年一月創刊以来永い間、ご愛読
いただき、その間箱崎地域の皆様を始めその
他数多くの方々のご支援、ご協力を賜わりま
したことを深く感謝申し上げます。

この機誌『はこぎき』は、箱崎町在住の
素人の手作りによるものであり、地域環境の
向上を目指し、ミニローカル誌としての役割
を背負いながら活動を続けてまいりました。
絶えず新しい発想をもって新時代の地域に
かかわる諸問題に取り組みながら、具体的目
標をテーマとし、当協議会全会員が一丸とな
って、そのひとつひとつの実現に向け最善の
努力を払い、着実に幾多の成果をあげてまい
りましたと自負しております。

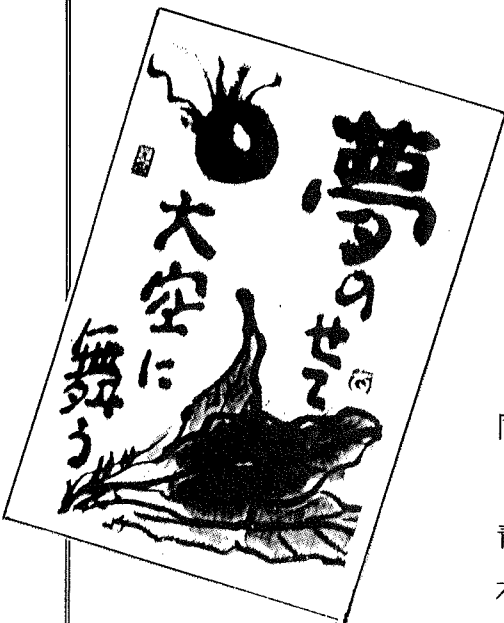
お陰さまで、地元箱崎地域はもとより、
近隣の皆様や、行政各方面よりも深い関心と
ご好評をいただき、厚いご支援をいただいで
おります。かさねがさね関係各位に対し深く
感謝申し上げます。

地域の環境問題については、時代に即応し
た諸施策が常に必要であります。当箱崎地域
についてもまだまだ立ち遅れが指摘されてい
る現状にあり、幾多の問題が取り残されてい
る現在、これから先いかなる困難な問題にも
常に前向きに対処し、今後引き続き当協議
会が目標とする地域環境の改善に、そして「
明るい街づくり」にと、住民も企業も一体と
なって、さらに具体的なテーマを掲げながら
取り組んでいきたいと願っております。

各方面の皆様には倍旧のご支援を賜わりま
すよう。そして今年も良い年でありませう
ご祈願申し上げます。新年のご挨拶といたします。
平成十年元旦

箱崎環境対策協議会

会長 川田利雄
副会長 山岸博
同 青木昭吾



は提供提がみ
さん子合百が
辰口辰



IBM箱崎ビルと地域環境への対応

日本アイ・ビー・エム箱崎事業所は、東日本地区の営業拠点として、一九八九年四月に開設された事業所で、第一線の営業部門とそれを支援するスタッフ部門および関連会社や協力会社社員の総勢約七千名が入居しております。

当箱崎ビルは、二十一世紀の新しいオフィス環境の実現と新しい時代にふさわしい地域環境の創造を図ることを一つの設計テーマとして建設されました。

そこで、当ビルと地域環境への配慮内容についてご紹介いたします。

当箱崎ビルは、その敷地の50%を公開空地とし、地域の環境改善の大きな要素になっているものと考えております。多種多様な樹木にあふれる緑地と、水庭、広場、歩道が隅田川のスパ―堤防と連続して敷地全体を公園のように再生し、都心の中の「オアシス空間」となっております。高密度都市環境にあつて、この「オアシス」の持つ意義と役割はきわめて大きいものと思ひます。

また、二層吹き抜けの明るいコンコースに面して、銀行、郵便局、旅行会社、コンビニ、飲食店棟の都市施設が誘致されていて、オフィスのサービ―と併せて周辺地域の方々との出合いの場を提供しています。

このように箱崎公園から参道のようなアップローチ空間、そして、静かな中庭を経て隅田川スパ―堤防へと適度な起伏をもちながら連続して、敷地全体が公園のようにイメージされる都市風景が創出されているものと思ひます。

(寄稿) 日本アイ・ビー・エム株式会社
箱崎総務プログラム業務担当
次長 武生憲市

正副町会長会議の開催を

昨年(平成九年四月十五日)初めて箱崎三町会連合による正副町会長会議が開催されました。

近年、箱崎三町会の各種行事やイベント等が参加者(特に子供)の減少により、単独町会での開催が困難となっております。そのため、陰祭りの子供向けイベントを中心として数年前より「箱崎まつり睦会」と言う組織を通じて、箱崎三町会の共同開催と言う方法が定着してまいりました。このシステムを更に充実させて、箱崎三町会のレクリエーション行事の大部分を共同開催しようと言う機運が正副町会長会議の議題となるものと思われます。そして、将来の「一つの箱崎」に向う可能性について様々な試行錯誤が行われて行く事でしょう。

今年も四月頃に正副町会長会議が開催される事と思われます。

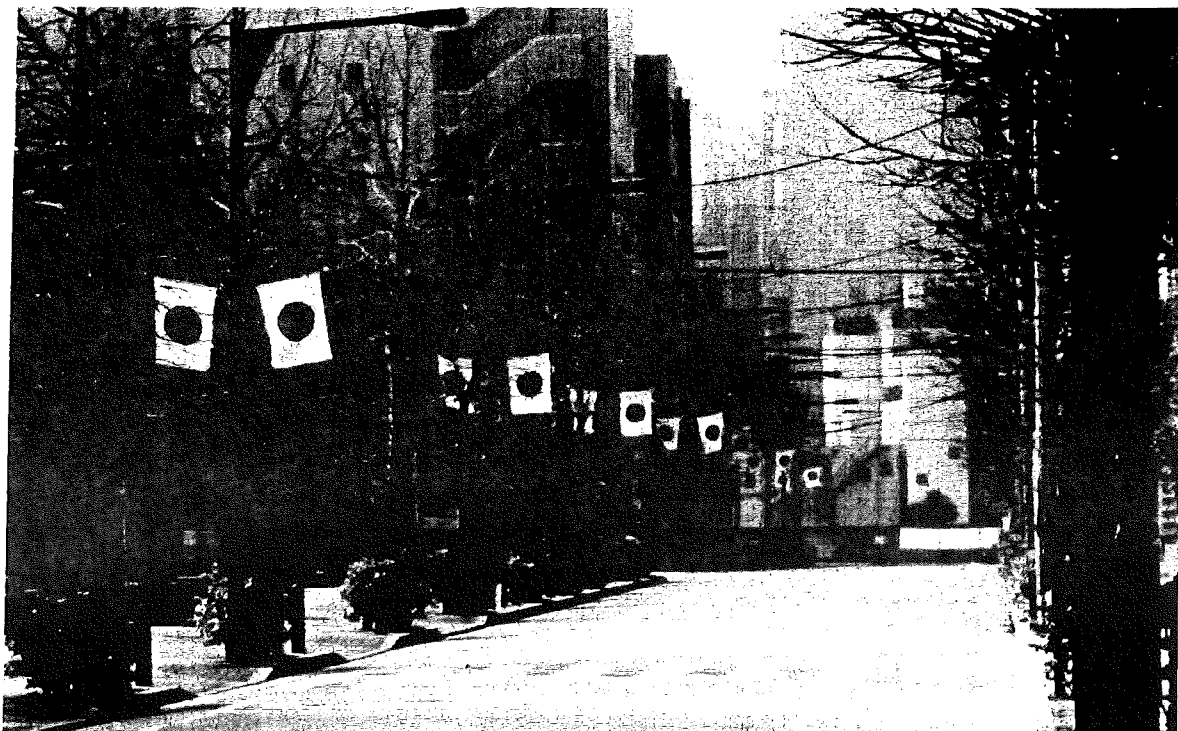
「昨年中に共同開催されたイベント」

大川端ビアパーティー (七月二十三日)

子供フェスティバル (八月十五日)

盆踊り大会 (より十六日)

はぜ釣、大鍋大会 (十一月三日)



箱崎町より功労者四名受賞

秋も深まった去る十一月三日(文化の日)中央会館において、箱崎町から四名の方が中央区より表彰されました。受賞者には、矢田区長より一人ひとりに表彰状が手渡されました。

◎町会関係功労者(中央区七十六名中)

多年にわたり町会の役員として、町会振興発展の増進に貢献された方々。

- 箱崎七の二 大塚さえ子(四九才)
- 箱崎二六の一 西山幹夫(五四才)
- 箱崎四十の七 山中國裕(五五才)

◎環境保全消費生活向上功労者

(中央区五名中)

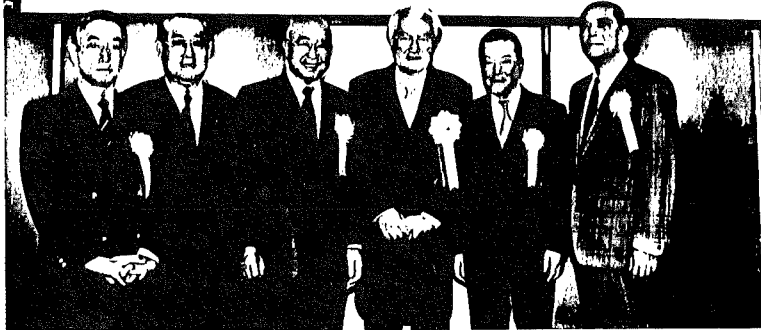
多年にわたり地域集団、回収団体の会長として資源の再利用に尽力され、地域環境の保全の増進に貢献された方々。

- 箱崎町二八の一 山岸博(六八才)

おめでとうございます。永年にわたり町の発展に尽力され有難うございます。これからも健康に留意され、地域社会の発展のために頑張ってください。

箱崎三町会長

祝中央区功労者表彰祝賀会



矢田中央区長(中央)を交えて功労者表彰記念写真
西山幹夫(向かって右端)山岸博(左から3人目)の両氏

今年も釣れないハゼ釣大会

九年十月十日(祭)

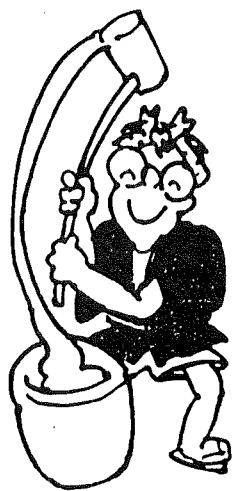
一〇五名の参加者の中で二年ぶりに「箱崎まつり睦会」主催で開かれた。風もなく穏やかな日和のなか、昨年同様、釣果はあまり良くなかったが、ふだん見られない親子で協力して釣をする姿が微笑ましく見えた。

模擬店として芋煮鍋、するもん鍋、アサリ汁の三種類を準備し大変好評だった。最後に折りたたみ自転車やおもちやが当たる抽選会が開かれ、なごやかなうちに終了した

三の部地区

合同餅つき大会行なわれる!

三の部地区委員会主催の餅つきも本年で二十四回を数え、水天宮前の道路を半分通行止にして、十五町会のテントが横一列に並んで十二月七日(日)に盛大に行われた。当日の餅米の量は五七〇キ、五七〇〇人前のお餅がつきあげられました。アンコときな粉でまぶして家族の皆さんがおいしそうに食べていました。当日は曇っていましたが昼頃より晴れ間がのぞき温かくなり、水天宮にお参りに来た人達もあまりの規模の大きさに、皆さんびっくりしていました。各町会も「ヨイショ」の声がかかり楽しんで餅つきをして、三時で終了しました。当日お手伝いいただいた皆様、ほんとうにご苦労さまでした。



水上バス誘致に第一歩

箱崎環境対策協議会の編集部では第一回の「水上バス体験乗船会」を九月七日に開催しました。両国乗船場から隅田川を下り、東京湾から葛西臨海公園を経由、荒川を上り隅田川をぬけて両国へ戻る、約三時間の船旅でした。この体験乗船により、私達の住む大川端の箱崎町が住む所、働く所として、いかに素晴らしい所かがよくわかりました。この体験乗船はこれから回を重ねて行く予定です。次回は各町会の皆様にも参加して頂きたいと思っております。 「箱崎に水上バス誘致」を箱崎の町造りの「夢」として本紙「はこぎき」では創刊号より度々取り上げてきました。 町内に世界への玄関口シティーエアーターミナルを持ち、地下には便利な半蔵門線が今更に錦糸町、押上方面に延長工事中です。 大川端に面したわが町箱崎は「水上バス誘致」により東京の交通の要となる事でしよう。 「町も企業も伸びる箱崎」を提唱し、この大きな「夢」を実現させる為の第一歩を印した昨年に続き、今年も大きな第二歩を歩み出したいと思えます。皆様の御協力と御支援を願ひ申し上げます。

八幡様の二の宮渡御、三年に一度

昨年新調された富岡八幡宮の新しい名物、二の宮神輿の渡御が本祭りの翌年の陰祭りに行こなわれる事となりました。来年の八月にはまた本祭りの連合渡御が行なわれ、再来年の八月が二回目の二の宮神輿の渡御となります。

伝統の「ワッショイ、ワッショイ」の掛声で担ぐ「水掛け祭り」は江戸三大祭りの一つとして私達氏子の自慢です。

神輿の担ぎ方には各町会の特徴が有ります。我が町箱崎の担ぎ方はどうでしょうか？

「箱崎まつり睦会」の中でもこの問題が取り上げられています。

箱崎には伝統の神輿があります。立派な神輿をみんなで立派に担ぎたいものです。

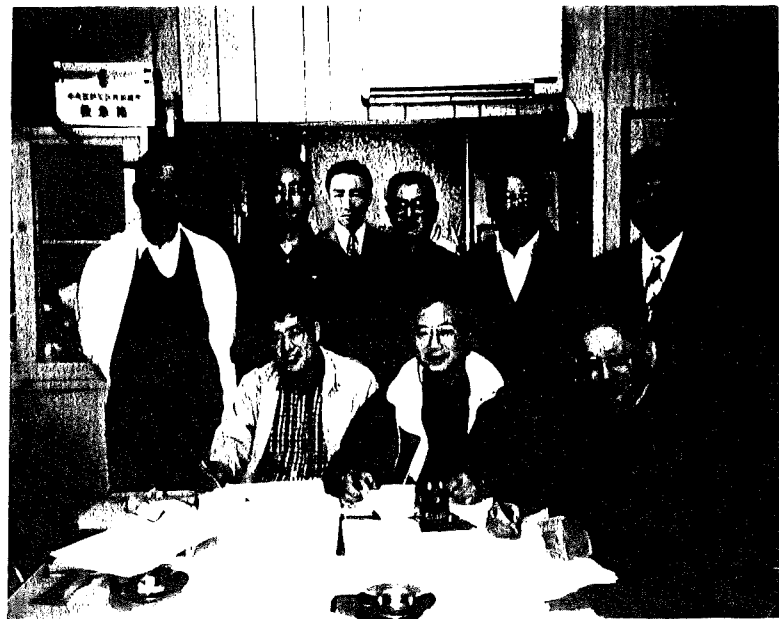
その為には総代を中心として、担ぎ手の意識の高揚と互譲の精神を大事にした、箱崎らしい神輿の担ぎ方を少しでも早く研究し、準備する事が望まれています。

編集部だより

今回、「はこざき」第二十号を発行するにあたり私達編集部員を紹介させて頂きます。昭和六十三年一月号創刊よりこれ迄十年間編集部員としてガンバッテ来た方々です。

- 竹門栄一、加藤恵一、青木昭吾、大塚英一
- 嘉藤清市、山中國祐、
- 今年より編集部員となつて頂いた方々。
- 福本光男、甲斐谷猛
- 編集オプザーバー
- 石島秀起

素人ばかりですが少しでも町の皆様と連帯した紙面作りになりたいと思っています。これからよろしくお願いいたします。



『はこざき』20号発刊を記念して編集部メンバー一同箱四町会事務所にて(平成9年12月17日)

新入編集部員誕生の顛末

「えっ！どうして私などに。勤まるとは思えません。今現在の編集部員の方々のご苦労は十分わかっています。とても感謝しています。とくに、環境対策協議会が箱崎三町会合同の作業として行われていること(草分け的存在)に意義があり、大事なことと思っていました。そのような立派な仕事を担当している会にお誘いいただけるとは大変光栄に思います。しかし、力不足、能力不足で迷惑をお掛けする事になりかねません。

年二回発行の新聞作成のお手伝いですが、でも年二回といっても、原稿を書いたり、編集をしたりは、文才のない私には。えっ！昭和六十三年から。そうですか。

そんな前から。確か、地下鉄半蔵門線の出入口問題、駅名問題、湊橋通りの電柱地中化、箱崎公園の改修、国旗の掲揚、スパー堤防際公衆トイレの設置等々、数え上げたら。とても素晴らしい活躍です。

ウーン！わかりました。

どこまでお手伝いできるかわかりませんが参加させて頂けます。編集部諸先輩の皆様、よろしくご指導下さい。微力ながら箱崎の町会員の皆様、企業の皆様にも親しみをもってお読みいただける新聞になるよう努力いたします。

新編集部員 福本 光男
同 甲斐谷 猛

ちよっ立話

おヤン熊さんじゃーないか！
オー！ご隠居さん、お元気どうぞ！
イヤー！お前さんのお陰だヨ！
おいらが何かしました？
いやネ、こないだセガレ夫婦が外国旅行に連れて行ってくれたんだヨ。
そりゃー結構な事で、セガレさんがうらやましい、俺なんか親孝行したい時には親はなしでさー！いや、それでネ、水の都ベニスへ行った時に迷路の様な町中で迷子になつちまって、キョロキョロしてたんだヨ。そへハカワイイ坊やを連れだした美人が現れて親切に私達をホテル迄送って行ってくれたんだ。

その美人が「ハコザキのクマ」を知ってるって言うんだ。エッ！俺にヤー！外人の知り合いなんざーいませんヨ！それがそーじゃないんだ。

その美人が新婚旅行で日本に来た時にロイヤルパークの前で親切な「ハコザキのクマ」に道を教えてもらってスバラシイ大川端を主人と散歩したんだそうだよー。

彼女が言うには、そばにいたカワイイ坊やは箱崎のロイヤルパークホテルの生れだ、って言うたヨ！

あー！あの時の「グラッチェン」の娘、子か！

まあそんな訳で熊さんのお陰で思いがけなく楽しい外国旅行が出来て、こうして元気、ゲンキ、てな訳ですヨ！

お前さんは日本の下町箱崎の鏡だネ！熊さん！